

ワーキンググループ（第1回合同）の意見概要

ジャパンサーチ正式版公開後の状況について

- ・初等中等教育で、ジャパンサーチを活用したキュレーション実践授業を行ったところ、児童・生徒の知識技能と主体性の向上が認められた。また、ワークスペース機能を用いた授業においては、キュレーション機能授業ほどの伸びはないようだ。
- ・連携準備中の機関がジャパンサーチにリンクさせるために、具体的に何が必要なのかというのが余り理解されていないようなので、要綱や案内チラシ等を作成し都道府県の各機関に配布してはどうか。コロナの影響で、中小規模の機関も急速にアーカイブに取り組み始めているようだ。

産学官フォーラム（第4回）について

- ・オンラインのパネルディスカッションは、対面と比較して、合いの手を入れたり、表情で呼吸を加えたりといった雰囲気伝わらず、オンラインで視聴している人にとってそれぞれ個別に話しているようにしか見えず、全体の流れを追いづらと思われる。そのため、オンラインのパネルディスカッションを実施する際は、パネリストの数を絞った方がよいのではないかと。

WGの進め方について

- ・本WGは、高度な学術的領域から地域のデジタルアーカイブまで、対象領域が非常に広いと、課題の検討に当たっては、公的機関と地域の中小規模機の違い等、環境要件を含めて整理が必要だと思われる。議論の際にはポイントをフォーカスすべき。
- ・全体戦略WGに長期保存の関係が入っていないので入れるべき。
- ・ジャパンサーチの利活用事例創出については、本WGのメンバーが創出するのは容易ではないと思われるため、いろんな意欲のある人にジャパンサーチを利活用してもらうためには、どのような戦略があり得るのかを議論すべき。
- ・地方機関と中央の公的機関とは様々な差があるが、地方機関が有するデータベースと連携させるのも重要。ローカルデータに入る際の窓口をどうするか、ローカルデータそのものをどう扱うかなどは、議論した方がよい。ジャパンサーチWGのつなぎ役か連携先の拡充での議論か、あるいは全体戦略WGの人材育成支援が近いのではないかと。
- ・WGでの議論は、誰に向けてのアウトプットなのかをはっきりさせた方がよい。例えば、一般のユーザー向けに伝えたいことなのか。ジャパンサーチに連携している人、連携したいと思っている人向けなのか。あるいはジャパンサーチとは関係なく、デジタルアーカイブをやる人をお願いしたいことなのか等。また、成果については、要求仕様という形等、ドキュメントに限る必要はないかもしれない。
- ・アーカイブ機関の人材教育支援の箇所については、アーカイブを作る人材、法律関係についての人材といったように決めてしまわずに、例えば観光振興のためにどう使ったらいいのだろうかとか、あるいは教育振興のためにどうやって使えばいいのかなど、性質が違ういろいろな観点があるということ踏まえ検討すべきである。また、コミュニティやつなぎ役等、他の課題とも関連するという意識をもって進めるべき。
- ・ジャパンサーチWGの位置付けについて、経営者的に指示を与える場所なのか、社外取締役的に評価を与える場所なのか明確にしたい。

- ・二次利用条件表示ガイドラインの改定について、全体戦略WGの法的課題への対応の中に入れた方がよい。また現行法上の裁定制度や、法律自体も継続的に動きがあると思われるので、継続対応する旨を追記した方がよい。
- ・利活用促進のための具体施策として、産学官連携に関し、企業との連携や意見交換、ニーズへの調整に注力できるとよい。メディア企業だけでなく、ベンダー企業、IT企業、SNS企業等、プロフィットセクターにいかに関わってもらえるかが重要。
- ・WGの課題について、ターゲットを明確にして、ターゲットごとに課題を整理する方が、テーマから入るより深く入りやすいのではないかと。デジタルアーカイブを受ける側、出す側、あるいは企業、地方機関、一般利用者等、様々なターゲットの区分がある。課題もターゲットごとに受け止め方は違うため、ターゲットをあらかじめ明確にしたほうが、WGの議論のテーマなどもわかりやすくなるのではないかと。
- ・本WGは、ハイレベルな会議になると思われるので、昨年実施していた有志会合のような、ブレインストーミングができる場を設けるなどして有効な議論ができるようにするほうがよい。
 - 非同期で文字情報を活用した議論（Slack）も有効ではないか。
 - 遠方の者にとっては「ウェブ会議」はありがたいが、全体の方向性決めておくべき。勝手にWGのようなイメージで、一定のテーマで、少人数で議論して、まとめてWGに共有するなど。
 - 対面に勝るものはない側面はあるので、文字情報非同期での議論を、バーチャル（orフィジカル）で同期するハイブリッド型はどうか。賛否を意思表示し物事を前に進める議論は同期（対面orウェブmtg）で、アイデアを募集するブレインストーミングは非同期（Slack等）が望ましい。それによってツールを使い分けるとよい。
 - 議論とブレインストーミングの分けだけでなく、国と地域など立場の異なる者から違いを理解する場も必要だと思っている。同期非同期は問わず、例えば、地域のデジタルアーカイブ機関が抱えている課題を公的な学術アーカイブ機関が理解するなど。
- ・ジャパンサーチのオーナーシップは、つなぎ役、ステークホルダーなど幅広い。ヨーロッパのアグリゲーターフォーラムのような、ステークホルダーの範囲での議論をファシリテートしていくことが、取組を維持する上で必要。
- ・全体戦略WG、ジャパンサーチWGにおいても連携機関の具体的な問題をどう吸い上げていくかという場を設けていただきたい。
- ・問題を吸い上げるようなあえて議題設けない会議の場においては、テーマによって、構成員以外をゲストとして参加させてよいぐらいなど裁量があるとよい。
- ・地方機関にとっては、きっちりとした国の会議に参加することは、相当な準備が必要で重荷になるので、課題などを簡単にちょっと話すことで、地方機関の本当の声を聞くことができる場が必要。

以上